

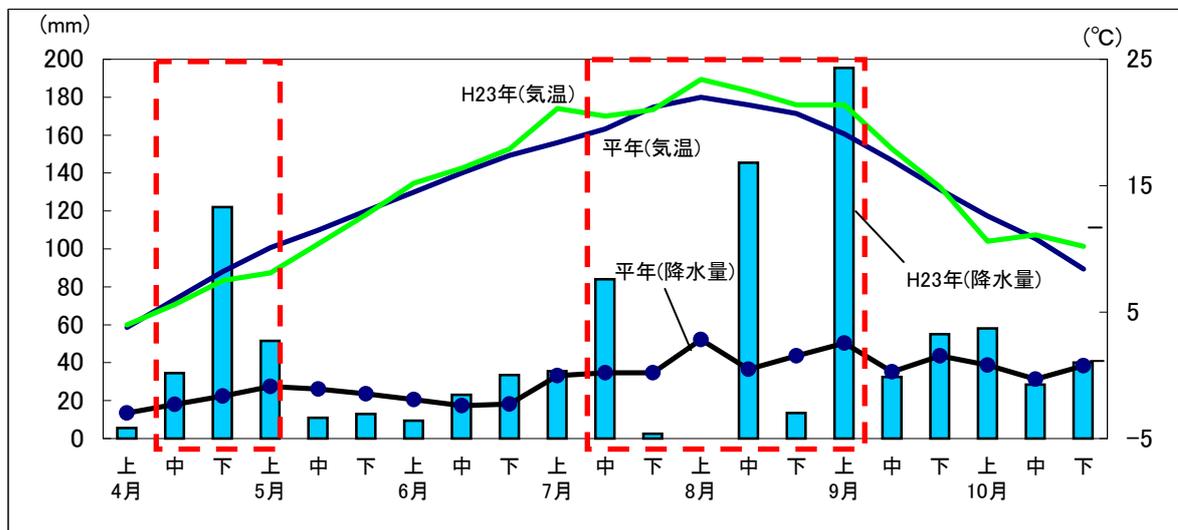
平成23年度基盤整備の有効性に関する調査報告の概要

- 平成21、22年に引き続き全道517ほ場で主要な作物を調査
(水稲、小麦、ばれいしょ、てんさい、大豆、牧草、その他)
- 作物の収量、品質のほか、防除、収穫など作業性についても調査

○ 平成23年の気象(岩見沢)

4月中旬から5月上旬までの連続した降雨により耕起・砕土、代掻きなどのほ場作業が大幅に遅れた。

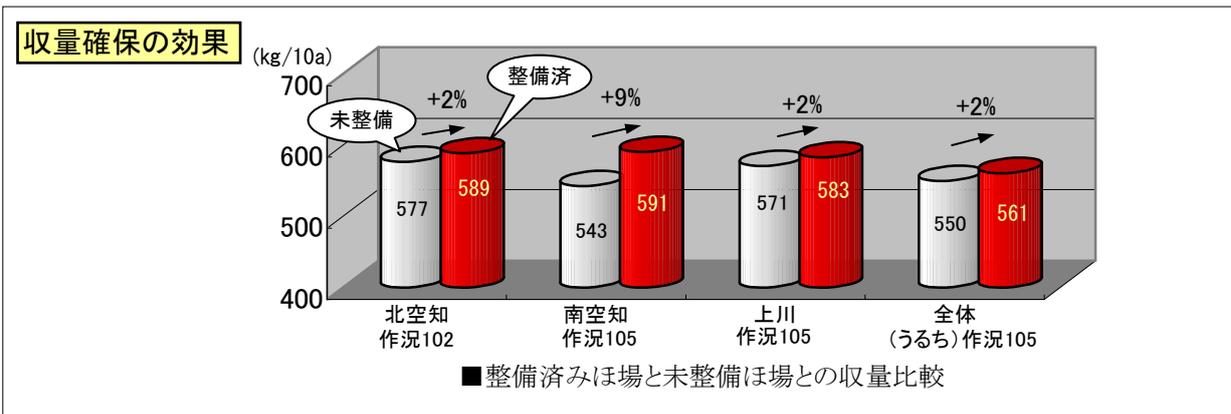
また、7月以降も多雨となり、防除や収穫作業が遅れるとともに、湿害による収量減少や品質低下の被害が生じた。



○ 水稲

暗きょ排水を整備したほ場では、作業の遅れを軽減できたほか地温の上昇により減収を軽減できた。

特に春先に大雨となった南空知では、収量減少の被害を軽減する効果が大きかった。



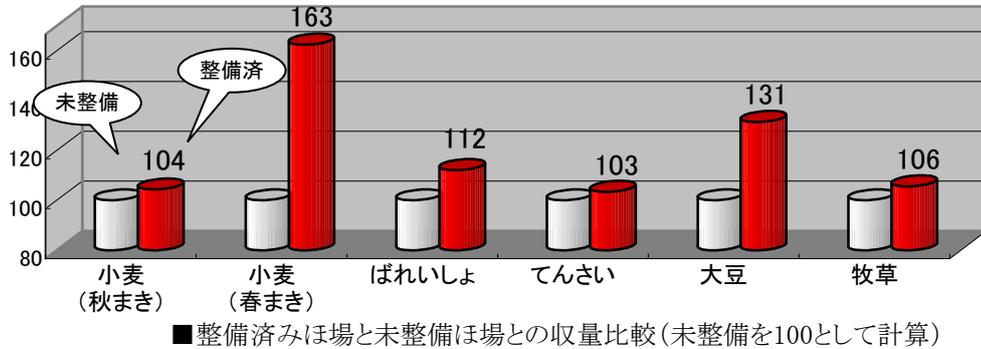
※ 暗きょ排水を整備することにより透水性が改善され、田面で温められた水が土壌中に浸透することで、地温が上昇する効果がある。

○ 畑作物・牧草

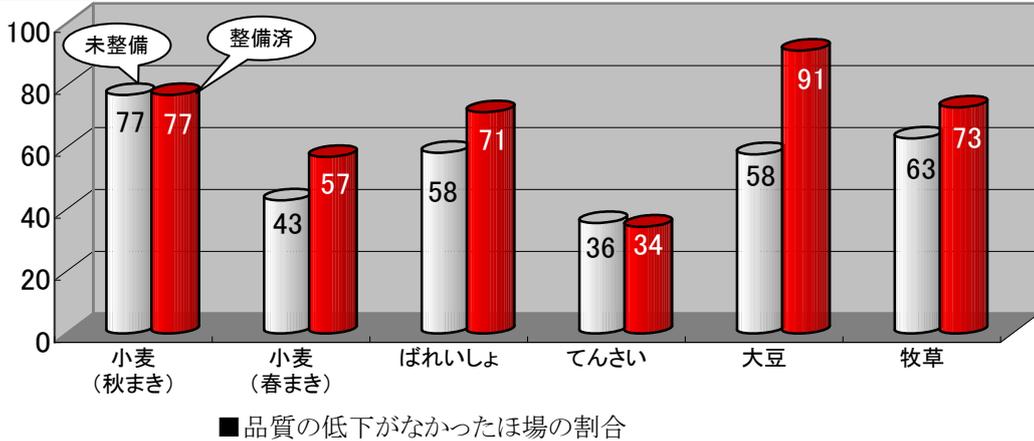
暗きょ排水を整備したほ場では、降雨後も速やかに防除や収穫の作業ができたことで減収被害を軽減できた。

特に春まき小麦、ばれいしょ、大豆では、収量減少や品質低下の被害を軽減する効果が大きかった。

収量確保の効果



品質低下抑制の効果



○ 暗きょ排水に対する評価

いずれの作物も作業性が高く評価された。

特に畑作物や牧草は、防除作業や収穫作業の遅れが収量・品質に大きく影響することから高い評価となったと思われる。

